

令和5年度 第2回 生涯学習センター—運営審議会

【日時】 令和6年2月21日（水） 午前10時～11時30分

【場所】 宇都宮市役所14D会議室（宇都宮市役所14階）

生涯学習センター運営審議会出席者名簿

生涯学習センター運営審議会委員 (任期：令和5年6月1日～令和7年5月31日)

1	菊地 美子	神刀無念凱山流 凱照会 代表 (中央生涯学習センター)
2	齋藤 哲男	三の沢北自治会 自治会長 (西生涯学習センター)
3	上野 秀雄	陽光地区まちづくり推進協議会 会長 (南生涯学習センター)
4	寺山 睦夫	宝木地区まちづくり協議会 会長 (北生涯学習センター)
5	阿久津 秀夫	清原地区自治公民館連絡協議会 会長 (清原生涯学習センター)
6	岡田 好枝	宇都宮婦人防火クラブ 会長 (横川生涯学習センター)
7	渡邊 秀雄	瑞穂野地区まちづくり協議会 役員 (瑞穂野生涯学習センター)
8	阿久津 節子	篠井小学校魅力ある学校づくり地域協議会 地域学校協働活動推進員 (篠井生涯学習センター)
9	稲葉 豊	雀宮地区まちづくり推進協議会 会長 (雀宮生涯学習センター)
10	斉藤 智子	上河内中学校地域協議会 地域学校協働活動推進員 (上河内生涯学習センター)
11	谷内 直子	白沢宮っ子ステーション放課後子ども教室 事業コーディネーター (河内生涯学習センター)
12	半田 文男	宇都宮市立今泉小学校長 (小学校長会)
13	高橋 重年	宇都宮市立国本中学校長 (中学校長会)
14	坪井 真	作新学院大学女子短期大学部教授
15	遠藤 芳孝	公募
16	上野 恵美子	公募

出席生涯学習センター所長

1	中央生涯学習センター所長	渡辺 隆
2	西生涯学習センター所長	山宮 幸人
3	北生涯学習センター所長	伊藤 泰拓
4	清原生涯学習センター所長	金子 正明
5	瑞穂野生涯学習センター所長	大根田 隆之
6	国本生涯学習センター所長	枝 俊充
7	豊郷生涯学習センター所長	田代 京子
8	姿川生涯学習センター所長	近藤 康

事務局

1	生涯学習課長	鈴木 康子
2	生涯学習課長補佐	高桑 昭祥
3	生涯学習グループ 係長	黒須 紀子
4	主任主事	吉澤 直輝
5	主任司書	小松 早枝子
6	主事	島田 綾香
7	管理グループ 係長	落合 幹子
8	放課後児童グループ 係長	白井 隆浩
9	家庭教育・地域人材グループ 係長	藤田 直樹

1 開会

2 議事

【協議事項】

- (1) 令和5年度生涯学習センター事業実績 及び

令和6年度生涯学習センター事業計画（案）について

【別紙1】 令和6年度生涯学習センター事業運営の考え方

【別紙1-1】 令和5年度生涯学習センター事業実施報告書（令和6年3月までの見込み含む）

【別紙1-2】 令和6年度生涯学習センター事業実施計画書

【報告事項】

- (1) 令和6年宇都宮市二十歳を祝う成人のつどいについて

【別紙2】 令和6年二十歳を祝う成人のつどい会場一覧

- (2) 第45回全国公民館研究集会

第63回関東甲信越静公民館研究大会長野大会について

【別紙3】 第45回全国公民館研究集会・

第62回関東甲信越静公民館研究大会長野大会について

3 閉会

2 議事

【協議事項】 (1) 令和5年度生涯学習センター事業実績 及び 令和6年度生涯学習センター事業計画 (案) について

【別紙1】 令和6年度生涯学習センター事業運営の考え方

令和5年2月に策定した「第3次宇都宮市地域教育推進計画後期計画」に基づき、生涯学習センターの事業運営に取り組む。計画策定2年目となる令和6年度については、令和5年度の考え方を基本としながら、令和5年度上半期の実績等を踏まえた見直しや新規事業に取り組み、内容の充実を図る。

【継続】

- ・ハイブリッド型の講座の実施
- ・企業等との連携
- ・学校や家庭ではできない体験学習等の実施
- ・地域や外国人、親子等、参加者間の交流の場の提供
- ・孤立しがちな子育て世代のコミュニティ形成
- ・地域課題の共有、地域への興味・関心や郷土愛の醸成

【新規】

- ・リピーターでなく、新規の参加
- ・働き世代やプレシニア世代の参加
- ・SNSの活用など、若い世代へ向けた地域の魅力発信
- ・講座実施後のフォローアップ (スマホ講座におけるデジタルサービスの利活用など)
- ・SNS等、デジタル技術を活用した講座の周知および参加者募集

【見直し】

- ・内容を固定せず、参加者の状況やレベルに見合った講座の実施
- ・土日開催や託児の充実など、開催日時等の工夫
- ・男女ともに参加しやすい環境の整備
- ・サークル団体の活動に結びつく参加型体験型の講座の実施

2 議事

【協議事項】 (1) 令和5年度生涯学習センター事業実績 及び
令和6年度生涯学習センター事業計画 (案) について

【別紙1】 令和6年度生涯学習センター事業運営の考え方

委員の皆様からのご意見

(R5.8.21 (月) 第1回生涯学習センター運営審議会)



ご意見① 令和4年度に実施した事業全体を通しての反省点

ご意見② 若い世代が参加できるような時間帯での講座の実施

ご意見③ まちづくり協議会と生涯学習センターの地域との関わり

ご意見④ 若い世代や働き世代へ向けた講座の申し込み方法の検討

ご意見⑤ 参加者の状況やレベルに見合った講座の実施の具体例

ご意見⑥ 若い世代へ向けた地域の魅力発信や仲間づくりの促進

2 議事

【協議事項】 (1) 令和5年度生涯学習センター事業実績 及び
令和6年度生涯学習センター事業計画 (案) について

委員の皆様からのご意見の反映について

ご意見①

令和4年度に実施した事業全体を通しての反省点

【別紙1】該当箇所①

【重点項目(1)】 (具体例3つ目) (【別紙1】P2)

ZoomやYouTube等のデジタル技術を活用したハイブリッド型の講座等の
開催や学習の推進

回答①

新型コロナウイルス感染症拡大の影響により、参集型の講座の実施が難しいことから、「オンライン」という手法がクローズアップされたが、学習環境が整っておらず、受講が難しい状況にあった。参集型の講座の実施ができる環境となったときには、参集型とオンライン型それぞれの利点を踏まえ、状況に見合った実施方法を選択し、両立させていきたい。

2 議事

【協議事項】 (1) 令和5年度生涯学習センター事業実績 及び
令和6年度生涯学習センター事業計画 (案) について

委員の皆様からのご意見の反映について

ご意見②

土日や平日夜間など、若い世代が参加できる時間帯での講座の実施

【別紙1】該当箇所②

【重点項目(2)】 (具体例2つ目) (【別紙1】P2)

土日や平日夜の講座の開催など共働き世代等も参加しやすい環境づくり

【生涯学習センターの役割】 (具体例4つ目) (【別紙1】P3)

土日や平日夜など講座等の開催

回答②

平日日中の時間帯での実施は、限られた世代の参加となってしまうことから、課題として捉えてはいる。今後は、主に20代から40代の世代に参加してもらえよう、平日夜間や土日の開催を視野に入れて、実施していきたいと考えている。

2 議事

【協議事項】 (1) 令和5年度生涯学習センター事業実績 及び
令和6年度生涯学習センター事業計画 (案) について



委員の皆様からのご意見の反映について



ご意見③

まちづくり協議会と生涯学習センターの地域との関わり
(講座の企画段階で、深い関わりがあるとは言い難い部分があることについて)



【別紙1】該当箇所③

【生涯学習センターの役割】 (具体例5つ目) (【別紙1】P3)

地域活動団体と協働・共催した講座や文化祭・地域のイベントの開催



回答③

まちづくりや人づくりは全てつながっているため、地区市民センターと生涯学習センターの2つの機能を備えている。まちづくりの主体であるまちづくり推進協議会と生涯学習を司る職員が一体となり、両者の利点を取り入れた講座の実施を推進していく。



2 議事

【協議事項】 (1) 令和5年度生涯学習センター事業実績 及び
令和6年度生涯学習センター事業計画 (案) について

委員の皆様からのご意見の反映について

ご意見④

若い世代や働き世代へ向けた講座の申し込み方法等の検討

【別紙1】該当箇所④

【重点項目(1)】 (具体例5つ目) (【別紙1】P2)

SNS等、デジタル技術を活用した講座の参加者募集

【生涯学習センターの役割】 (具体例4つ目) (【別紙1】P3)

SNSや動画配信などのデジタル技術の活用など、実施方法等の工夫による幅広い年代の参加の促進

回答④

各生涯学習センターの事業の広報は、主に「広報うつのみや」や地区内の小中学校や自治会の回覧なども活用している。申込締切時点で定員を超えた講座はないが、空きが出た場合は、市民からの問い合わせに対応しながら、締切後も継続して案内した。今後は、「電子申請システム」など、デジタル技術の活用も検討し、幅広い世代が参加できる環境を整えていきたい。

2 議事

【協議事項】 (1) 令和5年度生涯学習センター事業実績 及び 令和6年度生涯学習センター事業計画 (案) について



委員の皆様からのご意見の反映について

ご意見⑤



新規事業「リピーターでなく、新規の参加」
見直し事業「内容を固定せずに、参加者の状況やレベルに見合った講座の実施」



【別紙1】該当箇所⑤



【重点項目(1)】 (具体例4つ目 (【別紙1】P2))

参加者の状況やレベルに見合った講座の実施や、講座実施後のフォローアップ



回答⑤

新規事業については、市民が求めているものを捉え、情報発信を行う方法を検討することや、デジタル技術を活用して若い世代を中心に新規参加者を獲得することを課題として捉えているため、対応していく。

見直し事業については、地域課題等、継続すべきものは継続しながらも、参加者の足が遠のくことがないように、段階に応じた事業や、開催方法等を検討しながら、レベル別の実施にも対応していく。



2 議事

【協議事項】

- (1) 令和5年度生涯学習センター事業実績 及び
令和6年度生涯学習センター事業計画 (案) について



委員の皆様からのご意見の反映について



ご意見⑥

若い世代へ向けた地域の魅力発信や仲間づくりの促進



【別紙1】該当箇所⑥

【重点項目(3)】 (具体例2つ目) (【別紙1】P2)

SNSやデジタル技術の活用による若い世代へ向けた地域の魅力発信や「仲間づくり」の促進



回答⑥

SNSなどのデジタル技術を活用し、若い世代へ積極的に地域の魅力発信等を行うことで、若い世代の横の広がりを深め、「仲間づくり」を推進するとともに、地域活動に参加する意欲向上につなげていく。



2 議事

【協議事項】

- (1) 令和5年度生涯学習センター事業実績 及び
令和6年度生涯学習センター事業計画（案）について



委員の皆様からのご意見の反映について

令和6年度生涯学習センター事業実施計画書

各生涯学習センター

下記を元に、事業計画（案）を作成し、事業の実施

- ① 令和5年度生涯学習センター事業実施報告書
- ② 令和6年度生涯学習センター事業運営の考え方
- ③ 委員の皆様からのご意見（ご意見①～⑥）



出席生涯学習センター所長より説明

【出席生涯学習センター】

（中央・西・北・清原・瑞穂野・国本・豊郷・姿川・上河内）

2 議事

【報告事項】(1) 令和6年二十歳を祝う成人のつどいについて

【別紙2】令和6年二十歳を祝う成人のつどい会場一覧

1 開催日時等

【別紙2】参照

2 出席状況等

	令和6年(令和5年度)		令和5年(令和4年度)	
	該当者	出席者	該当者	出席者
総数	5,495人	3,927人	5,438人	3,880人
出席率	71.5%		71.3%	

3 実施結果

- ・公共交通機関での移動や学区との位置関係に配慮した会場設定をしたことで、参加者や関係者から好評の声をいただいた。
- ・9中学校区の開催場所をライトキューブ宇都宮にまとめたことにより、会場準備等の一部が一元化されるなど、運営上の効率化が図れた。

2 議事

【報告事項】 (2) 第45回全国公民館研究集会 第62回関東甲信越静公民館研究大会長野大会について

【別紙3】第45回全国公民館研究集会・第62回関東甲信越静公民館研究大会長野大会について

1 大会概要

1 趣旨

公民館は、戦後の民主化と郷土の復興を目的として誕生して以来、時代のニーズや社会の変化に対応しながら、「集う・学ぶ・結ぶ」実践的な活動を通じて住民自治を創造する役割を担ってきました。

近年、大規模な自然災害が全国で多発し、ここ長野県においても、令和元年東日本台風の豪雨により甚大な被害を受けました。会場となる長野市は千曲川の堤防が決壊し、濁流が住宅地に流れ込む映像が全国に流れました。この時、公民館はいくつかの施設に被害を受けながらも、住民の避難所として、また、災害復興の拠点として大きな役割を果たしました。

しかし、その年の冬から流行が始まった新型コロナウイルス感染症により、公民館活動の原点でもある「集う」ことが大きく制限され、受け継がれてきた伝統行事や住民同士を繋ぐイベント等を中止、縮小せざるを得ませんでした。それとともに、人口減少や少子高齢社会が進み、地域の連帯感の希薄化や人々の公民館離れに一層拍車がかかることが懸念されます。さらに、国際事情の不安定化がもたらす経済の悪化も人々の生活に不安の影を落としています。

このような中で、今、公民館は何をすべきなのでしょう？

今こそ「集う・学ぶ・結ぶ」原点に立ち戻り、これまでの公民館の存在価値を維持しつつも、時代の変化やニーズに合った新たな役割や理念を模索していく必要があります。

コロナ禍で失われつつある住民共助の精神、ICTの進化の中で取り残される情報弱者の学びの支援、SDGsの取組み、行政・学校・企業を超えた多様な主体との連携・協働など視野を広げ、住民にとって真に必要な「学びの場・交流の場」としての公民館であるために、語り合う大会にしましょう。

人生100年時代、公民館は、これからも住民とともに今を切り拓く伴走者でありたいと願います。

2 議事

【報告事項】 (2) 第45回全国公民館研究集会 第62回関東甲信越静公民館研究大会長野大会について

1 大会概要

【Keyword】

つながりによる
Well-Being

2 大会テーマ

人をつなぎ、時をこえて、未来を創る
～住民とともに今を切り拓く公民館～

3 開催期日

令和5年9月28日(木)～29日(金)

4 会場

第1日： 全体会 長野市芸術館 長野市鶴賀緑町 1613
情報交換会 長野ホテル犀北館 長野市県町 528-1
第2日： 分科会 長野市生涯学習センター 長野市鶴賀問御所町 1271-3
長野県農協ビル 長野市南長野北石堂町 1177-3
長野市東部文化ホール 長野市小島 804-5

5 開催方法

- ・対面による通常開催とします。
- ・新型コロナウイルス感染症の状況により、開催方法を変更することがあります。

6 主催

公益社団法人全国公民館連合会、関東甲信越静公民館連絡協議会
長野県公民館運営協議会、長野県教育委員会
主 管 第63回関東甲信越静公民館研究大会長野大会実行委員会
後 援 文部科学省 長野県 長野県市長会 長野県町村会 長野市
(予 定) 長野市教育委員会 長野県市町村教育委員会連絡協議会 長野県社会教育委員連絡協議会
信濃教育会 信濃毎日新聞社 SBC信越放送 NBS長野放送 TSBテレビ信州
abn長野朝日放送 NHK長野放送局(順不同)

7 参加者

公民館職員 公民館運営審議会委員 社会教育委員 教育委員会事務局職員
社会教育関係施設職員 社会教育団体関係者 その他本研究大会への参加希望者

2 議事

【報告事項】 (2) 第45回全国公民館研究集会 第62回関東甲信越静公民館研究大会長野大会について

2 全体会（記念講演）第1日目（9月28日(木)）

- (1) タイトル 「人とつながる」
- (2) 発表者 小平奈緒氏（社会医療法人財団慈泉会 相澤病院）
スピードスケート日本女子初の金メダリスト（2018年平昌オリンピック）
- (3) 講演内容
 - ・ スピードスケートを通じた人との出会い，そこから得た人生観について
 - ・ 自分はたくさんの人に支えられて成長することができた
 - ・ 今後，講演やボランティア活動を通じて，つながることの大切さを伝えていきたい

(4) 所感

金メダリストの印象が強かったが，それは，そこに至る過程で**多くの人とのつながりあってこそその結果**であるということを知ることができた。言葉一つひとつに説得力があり，**人を成長させる場としての公民館の必要性**を再認識させられた。

記念講演 講師



小平 奈緒 さん

社会医療法人財団慈泉会
相澤病院

長野県茅野市出身。豊平小学校、茅野北部中学校、伊那西高校、信州大学教育学部卒。

中学2年時に全日本ジュニア選手権スプリント総合部門で優勝し、“スーパー中学生”と呼ばれる。高校3年時はインターハイ500m・1000mの2冠。大学時代は日本学生氷上選手権大会（通称インカレ）500mで4連覇。大学2年時に全日本距離別選手権の1000mで初優勝しワールドカップデビュー。大学3年時にユニバーシアード1500mで優勝。卒業後は相澤病院の支援を受け、信州大学教育学部を拠点に活動を継続。バンクーバー・ソチオリンピックを経験したのち、2014-2016に2年間練習拠点をオランダに移して研鑽を積み、帰国後のシーズンから国内外の500mで2年半負けなしの37連勝を記録（ワールドカップは20連勝）。その間、平昌オリンピックでのスピードスケート日本女子初の金メダル、世界スプリント総合優勝2回などに輝いた。

2022年10月競技生活のラストレースとなった全日本距離別選手権女子500mを8連覇13回目の優勝で有終の美を飾った。11月より母校信州大学の特任教授に就任。現在は、講演やイベントに充実した毎日を送っている。

2 議事

【報告事項】 (2) 第45回全国公民館研究集会 第62回関東甲信越静公民館研究大会長野大会について

2 全体会（文部科学省施策説明）第1日目（9月28日(木)）

- (1) タイトル「社会教育を取り巻く最近の動向」
- (2) 説明者 文部科学省 総合教育政策局 地域学習推進課長 高木秀人氏
- (3) 説明内容
 - ① 今後の生涯学習・社会教育の振興方策
 - ・ Well-Beingの実現に向けた生涯学習・社会教育の推進
 - ⇒ 社会教育人材・施設が、地域の学びと実践プラットフォームとしての役割を担う
 - ② 社会教育の裾野の広がり和社会教育人材に求められている役割
 - ・ 社会教育士の活動事例紹介（特設サイト参照）
 - ・ 地域コミュニティに着目した他省庁の施策⇒すべて社会教育
 - ③ 社会教育におけるデジタルの活用と施設の機能強化
 - ・ 公民館のICT化（Wi-Fi環境の整備）
 - ・ デジタルデバイス解消に向けた取組⇒スマホ講座の開催
 - ④ 地域と学校の連携・協働の推進
 - ・ コミュニティスクールの導入
- (4) 所感
 - ・ ①人口減少、② Well-Being、③ デジタルがキーワードであるように感じた。
 - ・ これらの動向を踏まえ、国のサイトで紹介している先進事例なども参考にしながら、きめ細かな公民館活動を目指していきたい。

2 議事

【報告事項】 (2) 第45回全国公民館研究集会 第62回関東甲信越静公民館研究大会長野大会について

3 分科会（事例発表）第2日目（9月29日(金)）

9 分科会

	分科会名 討議の柱	発表都県	発表テーマ	会場
1	地域防災 ① 関係部局とともに、危機管理体制を築くうえで公民館の果たすべき役割について考えます。	茨城県 結城市立公民館	市指定避難所のうち、感染症等体調不良者の避難所	長野市生涯学習センター
		埼玉県 行田市長野公民館	災害時における避難場所としての公民館の課題と対策について一考	
2	地域防災 ② 関係部局とともに、危機管理体制を築くうえで公民館の果たすべき役割について考えます。	群馬県 前橋市元総社公民館	地域・学校・市の連携を強化し、みんなで災害に強いまちづくりを！	長野市生涯学習センター
		新潟県 糸魚川市田沢地区公民館	子どもたちと一緒に考える地域防災	
3	公民館のあり方 公民館の5年後、10年後のあり方を通して公民館の持続可能性について考えます。	神奈川県 平塚市中央公民館	ESDの視点で企画と評価。未来を魅せる公民館事業	長野市生涯学習センター
		長野県 富士見町公民館	長野県南信地区公民館の5年後・10年後	
4	これからの情報発信 地域で身近な公民館が、地域住民とつながるために必要な情報発信について考えます。	千葉県 船橋市東部公民館	ニューウェーブ ～公民館の新時代を目指して～	長野県農協ビル
		長野県 塩尻市塩尻東公民館	新たな選択肢が、「これからの情報発信」だ	
5	多様な連携・協働 ① 人々が豊かに暮らせる地域づくりのための多様な主体との連携・協働について考えます。	山梨県 上野原市公民館連絡協議会	地域と連携した公民館活動を目指して	長野県農協ビル
		長野県 佐久市中央公民館	「公民館でつながる」6つの取組み	
6	多様な連携・協働 ② 人々が豊かに暮らせる地域づくりのための多様な主体との連携・協働について考えます。	栃木県 栃木市栃木公民館	地域を“つなぐ”公民館を目指して ～栃木市公民館の取組～	長野県農協ビル
		東京都 小金井市公民館	公民館が多様な主体との連携・協働の中核となる地域人材とつながるヒント	
7	地域コミュニティの復興 災害からの地域コミュニティの復興に果たすべき公民館の役割について考えます。	長野県 長野市長沼交流センター 家庭・地域学びの課	令和元年の長野市長沼地区における被災後の社会教育活動について	長野市東部文化ホール

2 議事

【報告事項】 (2) 第45回全国公民館研究集会 第62回関東甲信越静公民館研究大会長野大会について

3 分科会（事例発表）第2日目（9月29日(金)）

【第2分科会】地域防災②

● 参加目的

危機管理体制を築く上で公民館の果たすべき役割について考える機会とする。

【事例発表①】

(1) タイトル 「地域・学校・市の連携を強化し、みんなで災害に強いまちづくりを！」

(2) 発表者 群馬県前橋市元総社公民館 小林智之 館長

(3) 事例発表

(目的)

- ・災害に強い元総社をつくる

(内容)

- ・専門家（群馬大学金井昌信教授）に防災アドバイザーを依頼
- ・金井教授による講演会を開催し、住民の防災に対する意識高揚を図る
- ・講演後、ワークショップを行い、具体的な行動のシミュレーションを実施

(方向性)

- ・ワークショップを踏まえ、実際の避難訓練を実施
- ・講演会の継続と、要支援者への支援方法の検討

(4) 所感

- ・ワークショップには学校の先生も参加しており、地域全体で課題に取り組んでいた。
- ・公民館だけでは検討は困難であり、防災に係る専門家の支援が必要であると痛感した。

2 議事

【報告事項】 (2) 第45回全国公民館研究集会 第62回関東甲信越静公民館研究大会長野大会について

3 分科会（事例発表）第2日目（9月29日(金)）

【第2分科会】地域防災②

【事例発表②】

- (1) タイトル 「子どもたちと一緒に考える地域防災」
- (2) 発表者 新潟県糸魚川市田沢地区公民館 堀田岩吉 館長
- (3) 事例発表
 - (目的)
 - ・ コミュニティ・スクール活動による地域防災力の向上
 - (内容)
 - ・ 毎年小学校4年生を対象に防災学習を地域と協働で開催（保護者や地域の方も参加）
 - ◆ 通学路、生活場所の危険個所の洗い出し（ブロック塀などの現地確認）
 - ◆ 消火訓練（ホースや水消火器の操作）
 - ◆ ハザードマップの見方、地震・津波を想定した避難訓練
 - (方向性)
 - ・ CS事業との連携強化（継続・発展）
 - ・ 防災を通じたコミュニティの活性化
- (4) 所感
 - ・ 防災を糸口としたまちづくりについて「**学校側からアプローチしている**」点に非常に感銘を受けた。
 - ・ **学校（学校長や先生方）の防災に対する意識の改革が必要**とのことであった。

2 議事

- 【報告事項】 (2) 第45回全国公民館研究集会
第62回関東甲信越静公民館研究大会長野大会について

4 研究大会参加後の豊郷生涯学習センターでの対応

- ・ 帝京大学経済学部地域経済学科の坪井塑太郎教授に防災アドバイザーを打診
+ 人と防災未来センター（リサーチフェロー）
+ 社会安全技術研究所（代表）
- ・ 坪井教授を講師とする防災力UP講座を開催
【開催概要】
 - ・ 日 時 令和6年1月21日（日）午前10時から
 - ・ 場 所 豊郷生涯学習センター
 - ・ 参加者 防災会，まちづくり協議会，連合自治会（参加者数43名）
 - ・ 内 容 ①防災講義
②グループワーク（令和元年台風第19号の振り返りなど）
- ・ 豊郷地区においては，当該講座を契機に，地区内の防災体制の強化や地区防災計画の改定の必要性について検討していく予定（坪井教授に伴走支援を依頼）

3 閉会

【連絡事項】

- ① 次回の会議日程について
(令和6年8月頃 開催予定)

長時間にわたるご審議、
ありがとうございました。

